

## 第2回 エックス線被ばく事故検討WG 議事概要

1. 開催日時：2021年8月13日（金） 午前9時00分から午前10時00分
2. 開催場所：Zoomを用いたオンライン開催
3. 出席者：（順不同、敬称略）  
飯本武志、古渡意彦、山口一郎、小嶋光明、小田啓二、川島恒憲、浜田信行、笠井 篤、  
秋吉優史、橋本 周
4. 紹介資料  
資料1  
放射線事故に関する公開情報
5. 議事
  - (1) 放射線事故に関する公開情報（報告）  
資料1に基づき、山口幹事より JRSM が取りまとめた海外の放射線施設の放射線事故に係る最新知見の収集 WG 活動報告及び国際原子力機関（IAEA）の Occupational Radiation Protection Appraisal Service (ORPAS)の概要に関する調査報告があった。
    - 海外の放射線施設の放射線事故に係る最新知見の収集について、局所被ばく線量評価の困難さ、及び各国の事故の取扱い基準が異なっている点が課題である。
    - IAEA ORPAS ミッションについて事例の紹介があり、規制当局へも助言ができる点が特徴である。
  - (2) 放射線事故に関する公開情報（報告）  
資料1に基づき、山口幹事より我が国の各省庁における取組について調査結果が報告された。
    - 各省庁において準拠する法令に基づき事故事例の紹介があった。
    - 事故毎に決定的な要因がある一方で、事故に共通する遠因（インターロックを解除して作業する動機等）が共通するのではないか、というコメントがあった。
  - (3) 国内外でのこれまでの X 線事故の概要（調査報告）  
資料1に基づき、山口幹事より国内外でのこれまでの X 線事故の概要について報告があった。
    - JCO 臨界事故報告書が公表されているので、参考にするのが良いとのコメントが笠井委員からあった。
    - ある国での事故発生件数が多いことは、放射線事故を適切に報告する取り組みが健全に機能していることの証左であり、一方、ある国では事故事例が報告されていないが故に事故件数が少なく見えている可能性もある、とのコメントがあった。
  - (4) 各委員からの簡単な口頭プレゼン（自己紹介等含め）
    - 事故における健康影響への関心から、事故時の線量評価及び健康影響を適切に関連づけることが不可欠である。（浜田委員）

- 事故時被ばく者の健康影響は被ばく線量に一義的に依存するので、被ばく線量を正確に評価する必要がある。(笠井委員)
- X線作業、非破壊検査における線源・装置の安全管理、作業者の放射線防護に関する検討が必要である(小田委員)。
- 学校教育の現場で低X線による過剰被ばく事例もある(秋吉委員)。
- 現場での放射線管理(商用原子力発電所)、特に非密封RI等における被ばく管理の観点から、予期しない汚染(計画線量を超える被ばく事象の発生)が生じる要因解析が必要である(川島委員)。
- 検討WGでの、実際に現場に適用できる実りある成果としてまとめる必要がある(橋本委員)。
- 過去の事件事例に関して教訓が整理されているにも関わらず事故発生が相次いでいることを踏まえて、これまでの提言が現場でどう反映されているかを確認するなど事故の再発防止について提言等まとめられるとよい。(小島委員)

(5) その他

- 第3回WGは8月19日(木)9-10時の開催を予定している。
- 第3回より、参加各委員に順次関連情報の提供をお願いします。

以上